



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：大統領によるエジプト訪問ほか

(5日付現地報道ほか)

1. イラン大統領のエジプト訪問 (5日付現地報道)

2月5日付のイラン主要メディアは、イスラーム協力機構(OIC, Organization of Islamic Cooperation) 外相・首脳会合(於：カイロ) 出席を目的とするアフマディーネジャード大統領によるエジプト訪問(2月5日～7日)、同大統領とエジプトのムルシー大統領の会談、OIC 外相会合におけるサーレヒー外相の発言などについて報じた。

- (1) アフマディーネジャード大統領は、イランの大統領としてはイラン革命(1979年)以降初めてエジプトを訪問し、空港で出迎えたムルシー大統領と会談した(注：ムルシー大統領は、OIC 首脳会合に出席するために空港に到着した他の元首も出迎えている)。アフマディーネジャード大統領は、同訪問に関し、「革命から34年～35年が経過して初となるイラン大統領のエジプト訪問であり、両国間関係に必ず影響を及ぼす」と発言した。また「地域のみならず国際社会において、イラン・エジプト間の協力と同調がなされれば、様々な関係において、諸国に資するような方向転換がなされるであろう」と述べた。
- (2) 同会談では、シリア国民の流血を止めるために、軍事介入によらないシリア危機の解決策、およびイラン・エジプト二国間関係の促進について話し合われた。
- (3) アルジャジーラ衛星放送などによると、アフマディーネジャード大統領は、テヘランを出発する前に、今回の訪問がイラン・エジプト二国間関係の新たな始まりに繋がることを希望していると述べた。
- (4) アフマディーネジャード大統領はアズハル大学を訪れ、同大学のタイブ総長と会談した。同総長は、アラブの同胞であるバハレーンの国家主権を尊重し、湾岸地域の内政に干渉しないよう、イラン大統領に求めた。
- (5) イランのサーレヒー外相は、OIC 外相会合において、「シリア危機の解決のために、シリア政府と協議するようシリア反体制勢力を説得しなければならない」と発言した。また、マリ情勢、パレスチナ問題、イスラエルの核兵器保有、OIC 諸国間での経済協力の

強化に関し発言した。

## 2. P5+1 との次回協議（5 日付現地報道）

イランの 2 月 5 日付メディアは、イランと P5+1（国連安全保障理事会常任理事国と独国）の次回協議の日程と場所に関する国家安全保障最高会議（SNSC, Supreme National Security Council）事務局の発表について報じた。

同日、SNSC のバーゲリー次長と欧州対外行動局（EEAS, European External Action Service）のシュミット事務次長が電話会談を行い、イランと P5+1 は、2013 年 2 月 26 日にカザフスタンにおいて、次回協議を実施することで合意した。

## 3. イラン政府と国会間の対立（4 日付現地各紙）

2013 年 6 月 14 日に第 11 期イラン大統領選挙が行われるのに向けて、権力闘争が激化している。イランの 2 月 4 日付各紙は、2 月 3 日に行われた国会におけるシェイホルエスラーミー労働・協同・社会福祉大臣の弾劾・不信任に関し報じた。

- (1) 3 日、シェイホルエスラーミー労働・協同・社会福祉大臣の弾劾に関する審議が行われ、賛成 192 票（全 272 票）をもって、同大臣の不信任が可決された。
- (2) 本件審議の中で、アフマディーネジャード大統領が国会議場のモニターを用いて、アリー・ラーリージャーニー国会議長の兄弟の汚職を示唆するフィルムを流したことから、大統領と国会議長の舌戦に発展しており、これを契機に国内対立がさらに激化する可能性がある。
- (3) ラーリージャーニー国会議長は、同日朝に国会担当副大統領から「弾劾が実施されるのであれば国会議長の親族に関するフィルムを流す」とする大統領の意向を伝えられていたと発言した。同議長は、政府による同行動を「陰謀であり、マフィアのような行動」であるとして批判し、「自分も大統領の親族に関する多くの情報を有している」と発言した。